

世界湖沼ビジョンはなぜ必要か？



琵琶湖研究所
所長 中村 正久

滋

賀県や国際湖沼環境委員会（ILEEC）は、二〇〇三年三月に開催される世界水フォーラムに向けて「世界湖沼ビジョン」の策定を目指しています。

湖沼はそれぞれその集水域社会の自然・文化・社会経済などの特徴を色濃く反映し、漁業・舟運・リクリエーション・観光など、周辺地域社会の産業の場としてだけでなく、歴史的景観、生物の生息場所などお金に換算することの出来ない価値をもつ存在です。また、洪水被害の軽減や水資源開発など河川流域の社会全体に多大な恩恵を与えます。しかし、湖沼は、そこに生息する生物が地史の時間スケールで固有の進化を遂げるなど他の淡水生態系には見られない特徴をもっており、地球上の生態系の中でも最も脆弱なものの一つです。過剰な汚濁負荷が湖に流出することを防ぎ、その生態系機能を健全に維持しなければ、湖沼は比較的短期間で持続的利用可能な状態から過剰ストレス状態になってしまう。一旦そうなってしまうと、保全対策事業が効果を発揮

する状態に戻すためには膨大な投資が必要で、回復には長い年月を要します。

世界には大小様々な湖沼が存在し、その多くがこういった問題に直面しています。しかし、琵琶湖など一部の先進国の湖沼を除き、持続的な利用と保全を実現するための正確かつ的確な情報の把握、十分な能力を培った組織や体制、必要な財源の確保、利害の対立を調整する社会的仕組み、地域社会の参加や率先した取り組みなどはほとんど実現していません。また多くの湖沼が地球温暖化や酸性化のように地球規模で起こっている問題に影響を受け始めていますが、それに対応する共同の取り組みはまだ緒に付いたばかりです。

「世界湖沼ビジョン」は、湖沼の持続的利用と保全のために必要な国際的なイニシアチブと具体的な行動に向けた指針ということができます。この「世界湖沼ビジョン」が琵琶湖のほとりにて採択されるということ、我々は世界の湖沼保全に具体的に貢献する新たな一歩を踏み出したということになります。

